

西郷隆盛、北区に来た!?

■ 太夫浜の石碑が語る!

太夫浜に「明治戊辰西郷隆盛宿营地」という石碑があります。1930(昭和5)年9月に建てられました。「明治戊辰」は明治元年(1868年)のことです。この年は、鳥羽・伏見の戦い、江戸城開城、そして県内では北越戊辰戦争が起きました。明治新政府軍によって長岡の城は落ち、新潟の町も攻撃されました。



激動のこの年、歴史の教科書に出てくる有名人、西郷隆盛が北区にやってきました!

■ ささまざまな記録が語る!

西郷は、越後にいる新政府軍を援護するため、北越薩摩軍の総司令として、兵員たちと春日丸という軍艦に乗って、1868年8月6日に鹿児島を出発しました。8月11日に新潟に到着し、新潟沖に停泊した後、16日に松浜(松ヶ崎)に移動し、坂井七(郎)左衛門家に陣を構えたと伝わっています。

このとき、すでに長岡や新潟は新政府軍が平定していたので、西郷がこの地で参戦することはありませんでした。

松浜で薩摩軍の指揮をとっていた西郷のもとには、新発田の新政府軍の本営にいた黒田了介(清隆)たち参謀が訪れて、今後の東北進軍について相談

したといわれています。

1カ月ほど松浜に滞在した後、9月9日ごろに松浜を出発して、14日に米沢、27日に庄内に到着しました。庄内では、鶴岡城開城のための城内見回りや武器の接収などに立ち会いました。

■ 松浜にはいたけれど、太夫浜には?

当時16歳だった太夫浜の古老が、西郷が松ヶ崎からやって来て、太夫浜の名主 神田喜左衛門家に1・2泊したと思い出話をしたことが伝わっています。この神田家には、西郷直筆だと鑑定された和歌も伝わっていたそうです。

地元で、当時の詳細な記録が見つからないので、太夫浜に、陣を構え長期に滞在していたのかはわかりません。しかし、この碑は北区に確かに西郷がいたことを今に伝えてくれています。

「明治戊辰西郷隆盛宿营地」の碑
西郷の門弟で筆跡鑑定をした、松田武五郎の
案で、神田家の精太郎が建立。松田は熊本出身で
西南戦争にも参戦しました。

